

2017年のポストカードを彩るのは若手女性写真家!



一瞬の美しさを鮮やかに切り取る。いつでもそばに置きたい写真を



Earth Photographer
西美都さん

みずみずしい感性で世の中の「瞬間」を切り取った、幻想的な写真の数々。西さんが写す世界は、自然や身の回りの景色に潜んだ、美しさと驚きに満ちあふれています。この場をいたことで写真に残せた貴重な瞬間を、写真を通じてたくさんの人と共有できれば、どう感じるかは見てくれた人の自由。むしろその「余白」を楽しんでほしいと思います。

写真に興味を持ち始めたのは高校生の頃。一ものづくりに好きだけだと、せっかちな性格で(笑)。結果をすぐ確認できるカメラに没頭するようになり、卒業後は大学の写真学科へ進み、沖縄へは休みのたびにリフレッシュを兼ねて、頻りに撮影に訪問。写真を生業にするようになったから、5年前に移り住みました。

【プロフィール】

- 1989年 東京生まれ
- 東京工芸大学 写真学科卒業

「心が求める場所で、目の前の景色の中にある自分の見たい世界。目に映る景色よりも心に映る世界。本物よりも本当の景色」を写真で表現。現在沖縄を拠点に、作品の持つ世界観をより体感してもらうため、撮影した写真を流木のフレームにおさめて展示を行う。

- 2013年 第61回ニッコールフォトコンテスト入賞
- 第17回総合写真展優秀作・入選
- 平成25年度沖縄県芸術文化祭写真部門入選

<http://earthphotographer-miyako.com>

沖縄へ拠点を移してから、主に本島内を駆け回ってシャッターを押し、納得のいく作品がたまに撮れてくる。個展の準備・開催に奔走する毎日です。「こくに意識して撮影対象を決めているわけではありませんが、光が透り出す世界や、水のような純度の高いものに引かれる傾向がありますね。写真を飾るフレームは、拾い集めた流木を使って、一つ一つ作風に合わせて自作しています。そんな西さんの厳選12作品を、2017(平成29)年には1年間、ウインズ広報誌とともに毎月お届けします。西さんからは読者の皆さんに向けて、「気分や場所を問わず、いつでもそばに置きたい写真、写真を入れてもらえるような、写真を届けられたらうれしいです」とメッセージをいただきました。

Fresh WINDS

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

Fresh Winds
2017年
1月号
Vol.148

TOKYO 2020

2017
Happy New Year

なぞなぞに **読者** 答えて

🎁 **プレゼント** 🎁

『映画ペアチケット』

3組様

Q お正月なぞなぞ
お正月に大人が落とすと子供が喜ぶものは何?

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先

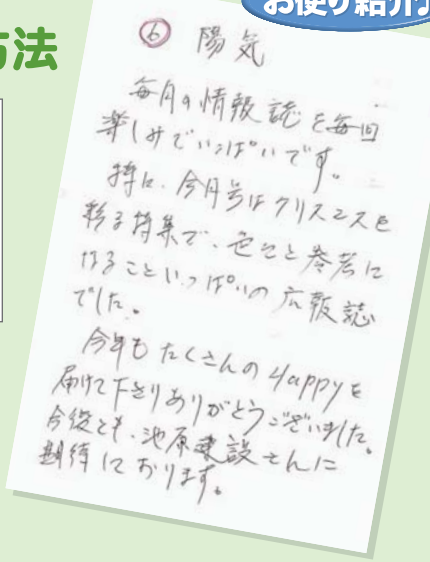
①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

⑥ なぞなぞの答え

⑦ 意見
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り
2017年1月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.149)にて発表致します」



12月号当選者 前号の答え(②陽気)

- ★上運天 さくらさん(うるま市在住)
- ★比嘉 幸雄さん(那覇市在住)
- ★中山 武子さん(読谷村在住)

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



地図

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!

0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

今月の歳時記

- 1月21日(土)~2月5日(日) 第39回 もとぶ八重岳桜まつり
会場・開催地/本部町・八重岳桜の森公園
- 1月28日(土)・29日(日) 第40回 沖縄市産業まつり
会場・開催地/沖縄県総合運動公園体育館および周辺広場
- 1月28日(土)・29日(日) 第55回 名護さくら祭り
会場・開催地/名護中央公園、お祭り広場特設ステージ(さくら公園)、他
- 1月28日(土)~2月12日(日) 第10回 今帰仁グスク桜まつり
会場・開催地/今帰仁城跡

明けましておめでとうございます!

新年明けましておめでとうございます。いいそぐわちでーびる。本年も引き続き、ご愛顧・ご愛読のほどよろしくお願ひ申し上げます。

今シーズンは早々から、開花の知らせが届いていた桜前線。月末には本島北部の市町村で、恒例の桜祭りが行われます。

広報誌制作担当: 仲村龍太



Street Story!

2017年お正月特集

女性社員の連携強化で、チームワークが高まり好循環 社員とその家族全員が輝ける会社を目指して



取締役の池原礼子とともに、女性社員から読者の皆さんに新年のご挨拶。2017年もよろしくお願ひ申し上げます！

女性活用を進め、男性にも女性にも開かれた仕事環境を実現していくことが、社会の大きなテーマになっていきます。池原建設では2016年、女性社員の連携を強化する新たな試みに乗り出しました。4名の女性社員の声を紹介します。

■ 社会が女性の感性を必要とする時代



代表：池原 多加氏

2016年の会社を漢字1文字で表すと「進」。特に女性社員の活躍が目立った一年でした。年頭、総務部の雨瀬美和に対し、「各セクションの女性社員を束ねて、率先して会社を盛り上げてほしい」と指示を出し、新年度を境に具体的な動きが本格化。女性社員同士の連携が

深まるにつれて、社内の風通しも一段と良くなり、会社全体に好循環が生まれました。私の指示の狙いには、「女性により働きやすい職場環境を整備する」意図があったことに加えて、その根底には「今の時代、社会が女性の感性を必要としているのではないか」という考えがありました。日本全体が好景気に沸いていた1990年頃までは、がむしゃらに仕事を頑張れば、おのずと結果がついてきました。でも今は、頑張ったからといって必ずしも結果に結び付くとは限らないし、前日までの成功事例が翌日には通用しなくなるような、極めて混沌とした時代です。舵取りが難しい、そうした予測困難な状況下では、今までの「男社会」で十分に生かされてこなかった女性の感性こそが、社会の新たな展望を切り開き、経済・地域を活性化する原動力になるのではないかと、常々思っています。

■ 建設業界ではまだまだ女性には少数派 働く女性の視点で業務をフォロー

現場で働く女性社員は、実際にどのように仕事に取り組む、2016年の職場環境の変化をどのように捉えているでしょうか。

「統括推進リーダー」に抜てきされた総務部の雨瀬は、「建設業界は他業界と比べれば、女性の割合はまだまだ少ないのが実態です。しかし逆にいえば、働く女性の視点から見ると、フォローできる点がたくさんあると考えています」と現状を認識。その上で2016年を振り返り、「4月のある大規模プロジェクトの完了後、女性社員全員が幹事になって、

社員・関係者を招いた慰労会を開いたのが、統括推進リーダーとしてのスタートです。



2016年4月に女性社員が幹事になって開催した慰労会の一コマ。

持ち前の明るさと行動力を買われ、4月に建設事業部から企画事業部に異動した屋良美樹は、女性視点以前にお客さま視点に立ち、家づくりのワクワク感を共有するために「ウィンズを今まで以上に盛り上げていこう」と奮闘した一年でした。新たな試みとして、クリスマスシーズンにお客さまを招いて会社案内を兼ねたケーキセットでおもてなしする企画も好評で、「ウィンズの家づくりの魅力をもっと細かくもっとたくさん知ってもらえたら」と意気込んでいます。秋以降は積極的に現場に出るようになり、「専門知識を習得して、お客さまと設計の円滑な橋渡し役になりたい」と日々研さんに励んでいます。



屋良 美樹

■ 建築家・渡久地克子氏の建築サロンを開催 士気向上・スキルアップに大きく貢献

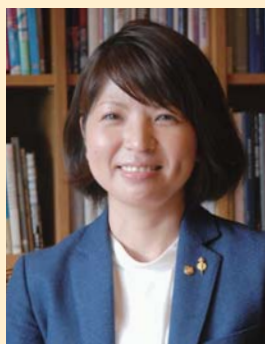
女性社員の士気向上とスキルアップに大きく役立っているのが、建築家・渡久地克子さんを講師に招いた「克子建



建築家・渡久地克子さんによる「克子建築サロン」。毎週1回、約2時間間隔で開催

4月に企画事業部から建設事業部の窓口へ配属された長浜円も、サロンから大きな刺激を受けました。「渡久地さんからは、沖縄の業界で一番の

いや、日本で一番のフロントになりなさい」と指令があり、そうした存在に一步でも近づけるように勉強する毎日です。来客時のスムーズな応対に加えて、敷地内を彩る植栽やインテリア、季節ごとのデコレーションなどにも気を配り、訪れた人も働く人も快適さを感じられる空間を演出。「入社当時から、私にとって理想的な職場環境だと自負しているのです、より一層魅力的な場所にしていければ」と話し、その一環として、2017年はカラーコーディネートターの資格取得を目指しています。



長浜 円

女性社員の中では現在ただ一人、技術職の比嘉かおりは、常務の仲村勝志の下で積算業務を担当しています。まずは専門性を高めることに主眼を置き、設計図・仕様書の読み方や、建築資材・工程の知識、積算ソフトの使い方などの習得に励みつつ、協力業者の担当者とのやり取りや打ち合わせも頻繁に行うため、目配り・気配り・心配りの心構えは必



比嘉 かおり

今回登場した4名の他にも、女性社員全員が連携を取りながら、それぞれの持ち場で仕事に取り組んでいます。リーダーの雨瀬は、「与えていただいたこの上ないチャンス。しっかりと結果を出して期待に応え、次のステップに進んでいきたいですね」と笑顔。

2017年も池原建設女性チームの活躍に、乞うご期待下さい。

